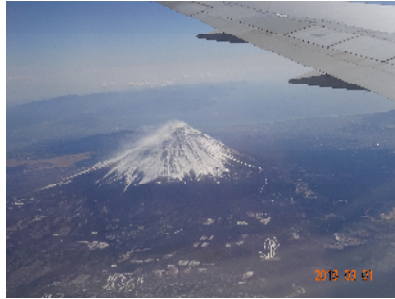


長崎 五島への旅 (2018.3.1.--3.6.)



機中から見えた富士山

3月1日

昨日から低気圧が列島を襲うニュースが流れ、長崎行きの JAL は午前の便はその影響を受けるかも知れない状況であった。恵美に 7 時 20 分に来てもらい、つくばセンターに送ってもらう。バスが発券する頃は、天気も回復に向かい、高速道路を進んでいる間に天気はすっかり快晴になり、風の影響がなければ飛行機には影響がないと思われた。

出掛けのバタバタで腕時計を忘れてきたので、羽田で Furbo という腕時計を買った。これは何れ優君へのプレゼントになるだろう。

荷物を預けて、昼のおにぎりとお六寿司を買って 3 番ゲートの前で昼食を取る。予定通り飛び立ち、台風一過で富士山がとても綺麗な日であった。長崎空港には 14 時 40 分頃到着した。美智子が飛行機の揺れで酔ったようで気分が優れず、バスを一台過ごす。結局タクシーで JAL City Hotel 長崎に向かう。高速道路を通過して 40 分ほどでホテルに到着した。この時丁度長崎の中華街を中心にして Lantern Festival の最中でホテルがある新地はお祭りの真ん中であつた。



ホテルの窓から稲佐山を見る



Lantern Festival の中華街

ホテルで少し休んでお祭りを見に行く。一寸ねぶたに似たようなランタンで人



コメントの追加 [頁沼圭二]:

物や動物が作られていて人出もすごい。2月16日から3月4日まで続く長崎を代表するお祭りで観光客も多い。ホテルにもどり、中華料理のレストランで長崎ちゃんぽん、チャーハン、酢豚にビールの夕食になった。美智子は、今日は dry でお茶を飲む。朝からの長旅でいささか疲れた。

3月2日

朝食を昨夜のレストラン桃苑でとる。思ったより大勢の客が泊まっていた。ホテルに8時50分にタクシーを呼んでもらい、乗船場に向かう。ホテルから10分足らずの場所であり、9時半発の高速船で上五島に向かう。



長崎港の待合室



乗船した高速船

昨日の荒天の後だったので、波が気になり、美智子は酔い止めを飲む。11時15分くらいに有川港に到着するとカードを持った女性が待っていており、役場の職員とのことでタクシーでホテルまで送ってくれる手筈になっていた。大変有難い手配であった。航行中、思ったより波は静かで長崎の陸地がずっと見えていた。



有川港の船着き場で出迎える女性と 五島うどんの店 竹酔亭

ホテルはまだチェックインできる状態でなかったもので、いろいろ調べて有川港からのタクシー運転手から聞いた竹酔亭というところに五島うどんを食べに行く。野菜その他が沢山入ったうどんを食べたが、あまり特徴がなかった。美智子が店の人と話している間に、この店のオーナーという人がおり、工場を見せてくれることになった。この店はますだ製麺という会社に属していて、美智子が話した人はますだ製麺の会長さんで、彼の車で工場まで連れて行ってくれた。



ますだ製麺工場にて



宿泊した上五島観光ホテル

会長の舩田氏はフジテレビの 3 大うどんの競技に五島うどんを代表して、出演して 2 位に入賞した上五島の名士であった。因みにこのコンテストでは一位が稲庭、二位が五島、三位が讃岐であったそうだ。工場は常務の舩田さんという人が案内をしてくれた。非常に要領を得た説明で、手延べうどんが出来るまでの工程を全て見学できた。昔は本当に手で伸ばしていたものを、機械で全工程を置き換えたもので、見ていてよく理解が出来るものであった。また包装の前では、目視で太さの異なるものを除く作業とか、両端を滑らかにする研磨機などがあり、非常に面白かった。帰りはますだ製麺の販売所により、美智子のお土産などを含めて買い物をして宅急便で送ってもらうように依頼してきた。ついでにホテルの近所で食事をする場所などを紹介してもらう。



五島うどんの地獄炊き（上五島の女島にて）

タクシーを呼んでもらうつもりでいたが、結局ますだ製麺の人にホテルまで送ってもらった。夕食はますだ製麺の売店の女性に紹介してもらった女島という居酒屋風のお店で食べた。特別大きな店ではなかったけれども、いろいろ珍しいメニューがあり、鳥皮で包んだ餃子、カマンベールチーズを餃子の皮で包んで油で揚げたもの、イサキの焼き魚などをとり、食事は地獄炊きという五島うどんの代表的なものを食べる。釜揚げうどんのようになべの中で茹でた状態でなべのままテーブルに出して、生卵が入ったあご出汁の漬け汁で食べるもので非常に美味であった。店の老夫婦との会話も楽しく気分のよい食事であった。長い一日であったが、充実していた一日であった。

上五島観光ホテルはかなり古いホテルで宿泊客も少なく、昔は良いホテルであったと思われるが、3階までのエレベータもないところで美智子は階段で苦労していた。

3月3日

椿サミットの当日になった。朝食を終わって石油備蓄センターの会議場に行き、登録を済ませる。



サミット会場の入り口にて
小泉さんご夫妻は既に手続きを終わっており、即売会の会場でお会いする。



いろいろな椿の goods が出ており、美智子は元気百倍になり買い物をする。
椿のデザインをしたいろいろな小物や椿の木を利用した木工品、椿油関連の品
など多彩であった。来年は御殿場開催で、御殿場のブースを覗く。



既に購入をしてあった弁当をもらい、ホテルに戻って食事をして、一休みした後、タクシーを呼んでもらい会場に戻る。大会議場はほぼ満席になっていたが、小泉さんが席を確保してくれてあった。



椿サミットの開式



羽差し太鼓の演舞

セレモニーは、有川の捕鯨の様子を太鼓で表現した有川の小学生から中学生までの太鼓演舞、羽差太鼓など勇壮な雰囲気が始まり、町長、日本椿協会会長挨拶に始まり、「流れのままに」という演題で新上五島町名誉観光物産大使の片岡鶴太郎氏の記念講演があった。彼は何を言いたいのか全く分からない小話をいくつかして、全体としてなんとも締らない話の連続であった。よく練習を積んで出演した太鼓の子供たちに比べると粗末な記念講演であった。

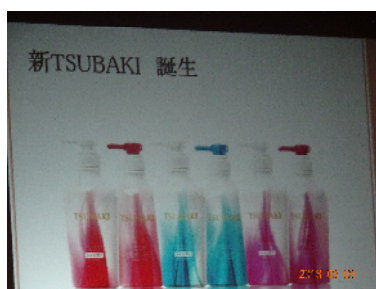


片岡鶴太郎氏の講演



上五島と椿の講演より

その後、上五島の文化財課の係長の高橋弘一氏の「新上五島と椿」及び資生堂のグループマネジャーの尾上真由美氏の「椿T SUBAKI が結ぶ五島との縁」という話があった。資生堂製品の椿油としては五島のものが一番で、足りない場合には伊豆大島産を用いるという話とか、資生堂が上五島で椿の植林をしている話などをした。これらの話題は informative で面白かった。終了後バスで懇親会場有川体育館に行く。



資生堂の椿の新製品



高校生による書道のパフォーマンス

300名くらいの懇親会で70kgのマグロの解体ショーが行われ、楽しんだ。このマグロは近くの若松という所で養殖されたものとのことだった。美味しく食べた。やはり海にかこまれた五島なのでいろいろな刺身がテーブルを飾っていた。上五島神楽、品種登録作品の人気投票の結果発表などが行われ、美智子を選んだ「壇の浦」が一位に入った模様であった。



椿サミット 懇親会場

午後の会議の最中に九州商船の西さんに美智子が連絡して、スケジュールがあまりタイトなので疲れが心配なので、明日の予定をキャンセルしてタクシーで奈良尾港に行くことにした。

3月4日

7時に朝食をとり、7時半に予定通りに来たタクシーで観光に出る。ドライバーに観光したい場所は島の北端にあるやぶ椿の群生地、いくつかの教会を見て、12時50分の奈良尾発の福江行きのジェットホイールに行きたい旨を伝える。彼は了解して、北に向かう道にしたがって有名な教会に寄ってくれながら、いろいろとカソリックの教徒の苦難の歴史を語ってくれた。



左の写真は静かな海と先端の矢固め島で、丁度オーストリアのハルシュタットの景色を思い出させる景色であった。



青砂ヶ浦教会

最初に寄った青砂ヶ浦教会では7歳になる子供の教徒になる最初の儀式の日で、親に付き添われた子供たちが無邪気に庭を走り回っていた。いろいろカソリックの規範の話を聞かされた。



仲知教会 天井のXの模様が十字架を示している

また現在世界遺産登録に向けて準備をしているようであったが、隠れキリシタン」という言葉は用いず「潜伏キリシタン」という言葉を使うようであった。現在もカソリックにも、プロテスタントにも属さない「隠れキリシタン」というままのステータスでいる人々の話しもしてくれた。島原のキリシタンは、200年後平戸に到着したキリスト教神父に自分もキリスト教信者であると申告して「信者発見」ということでヨーロッパで有名になった話などをしてくれた。



上五島最北端の津和崎のやぶ椿群生地

ドライバーは谷山さんという人でマテオという名前を持っているカソリックの人で非常に詳しくいろいろ説明してくれた。

島に29ある教会のうち江袋教会、仲知教会、最後に石の教会と呼ばれる頭が島教会などを見て、12時25分頃奈良尾につく。上五島の特に有川は捕鯨の町で鯨見の丘とか、ながす鯨のあご骨を飾った神社などがある。



石の教会で有名な頭が島教会

奈良尾から30分ほどでジェットホイールという水中翼船で福江港につく。椿サミットの人もかなりおり、この船は長崎に向かっている船で福江は最初の寄

港地であった。乗船場で少し地理を調べてタクシーでカンパーナホテルに来る。ほんの数分の距離であった。ホテルは平成14年に天皇、皇后陛下がお泊りになられたところで近代的で気持ちの良いホテルである。



カンパーナホテルの夕食 食事も素晴らしかったが料理長のスケッチも楽しかった

夕食はホテルのレストラン「万葉」でと和食の懐石料理を食べる。内容は良かったが、矢次早に出てくるので、余りゆっくり食事をした感じではなかった。

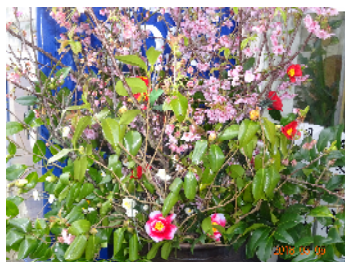
3月5日

今朝はやはり連日のスケジュールでいささか起きるのがつらかった。8時に朝

食に行く。昨夜と同じ「万葉」であった。目の前で豆乳から五島名産の苦汁（にがり）を使って豆腐を作ってくれた。五島は塩の名産地でもあった。食後、五島城内につくられた五島観光・歴史資料館に行く。非常に内容が優れており、2時間以上をここで過ごす。最も興味があったのは、五島のキリシタンについての特別展示とビデオでの説明であった。福江は椿まつりが終わったばかりで街路樹は椿がきれいに咲いていた。

写真の赤い椿は街路樹の下に落ちていたやぶ椿である。玉の浦椿はホテルの人が部屋に飾ってくれたもので、非常に嬉しく、もてなしの心を感じてチェックアウト前にアンケートにそのことを書いておいた。

数週間後、花を飾ってくれたホテルの従業員からお礼の手紙が来た。その人の庭で今年初めて咲いたものでとのことで余計嬉しく感じた。



歴史・観光資料館



玉の浦



街路樹のやぶ椿

1549年にフランシスコ・ザビエルが布教に長崎をおとずれた際に大村藩は人心の統一、海外との貿易などの利点を認識してかなり意欲的にキリスト教を取り入れた。それから17年経過して、五島にキリスト教が伝わった。信長が滅して、秀吉の時代になると彼のキリスト教禁教令により教徒の弾圧がおこる。大村藩は五島藩との間で、教徒の引き受けについて話し合いが持たれ、3,000名の信徒を五島で農民として生計を立てるようにして受け入れた。さらに徳川

時代になると弾圧が激しくなり、大村、天草の信徒がこぞって五島に移住してくることになり、幕府の信者狩りも熾烈を極め、踏み絵などを用いて、徹底的に信者狩りをした。これは明治の時代までつづいた。禁教が解けた時期、隠れキリシタンはカソリック信者になるか、そのまま隠れキリシタンで過ごすかの選択が行われ、二つに分かれて行った。この時代までのキリシタンを潜伏キリシタンと呼び、その後もカソリックに復帰しなかったキリシタンを隠れキリシタンと呼んで区別しているという文献もあるとのことであった。



堂崎教会と聖ヨハネ五島の殉教像

上五島に 29 教会、下五島に 20 という人口に比して非常に多くの教会がある。これは移住してきた信徒の背景が異なった為とのことである。いずれの教会も規模こそ小さいが非常に手入れは行き届いた教会になっている。

資料館では、このほか五島の捕鯨文化、稲作文化などの展示もされていた。資料館長さんと話したところでは、現在も世界遺産に登録すべく準備をしているが、過去に 2 年連続して不採用であり、今年が正念場とのことであった。ただ作業していて「キリスト教徒迫害」の歴史が前面に出るもので、五島に住む人間として迫害の歴史で世界遺産になるということは複雑な気がするとのことであった。つくばから行ったことを話すと彼は校長先生になる前につくばで一か月研修を受けたと懐かしそうに話していた。

ホテルの部屋に戻って昼食をとり、午後からタクシーで福江島の観光に出た。この島は結構大きく、見るものも多くあったが、堂崎教会に行き、この中にあったキリシタン資料館を見る。ここには隠れキリシタンの詮議に用いた踏み絵の板、観音様の顔をしたマリア像、隠れキリシタンのお祈りのオラショと呼ばれる経文などが展示されていた。また教会の庭には日本 26 聖人の一人聖ヨハネ

五島の殉教像が建てられており、全信徒の崇敬の的となっているという。堂崎教会は福江島の北東部分に位置していた。



三井楽教会



水の浦教会

さらに道を西にとり純白の装いの水の浦教会を見て、福江島の西の先端の三井楽教会に行く。この教会は外壁がモザイク模様で飾られている教会であった。更に西に進み遣唐使船の最後の停泊港で、空海記念碑を見る。この日は強風の日で海岸に立っていることが出来ないほどで、早々に車に避難する。帰路三井楽にある遣唐使ふるさと館により、遣唐使関連の資料や写真を見る。あとは384号線で一路福江に戻った。ここの展示はとても良いもので、ゆっくり見たかったが、夕方がせまり、残念に思いつつ2時間半のドライブで、山の中や海岸を走り種々の農業地帯をみることができた。

夕食はホテルで教えてもらった寿司割烹「ふくえ」という店に行く。魚を食べる目的であったので、五島名物のハコフグのみそ焼きを食べる。これはフグの中身を取り出してミンチにして味噌と混ぜてハコフグの皮に戻して焼いたもので非常に珍しい料理である。其の他ぶり大根などをとる。それぞれは美味しかったが、最後の握り寿司はカウンターの中での握りの仕方がもたもたしていて、できたものの味まで何となくモタツとしていた。やはり寿司は手早く、機敏な手つきの江戸前の方が美味しく感じる。

ホテルの売店で宅急便を送ってもらう荷造りをして、明朝の出発の準備をした。

3月6日

ホテルで朝食をとり、9時に頼んであったタクシーで福江空港に向かう。

飛行機は10時10分のANA4916の福岡行である。空港内に世界遺産に向けた展示があり、候補に上げられている長崎の教会の説明と展示があった。美智子は空港に植えられてあった「玉の浦」の写真をとる。玉の浦椿は玉の浦地区の山地で発見された突然変異の椿で、全国的に有名である。空港の前庭に一列に植えられていて、福江のシンボルでもあるようだ。空港の入り口のドアにも玉の浦が書かれていた。久しぶりに乗る小型プロペラ機で福岡空港に向かった。

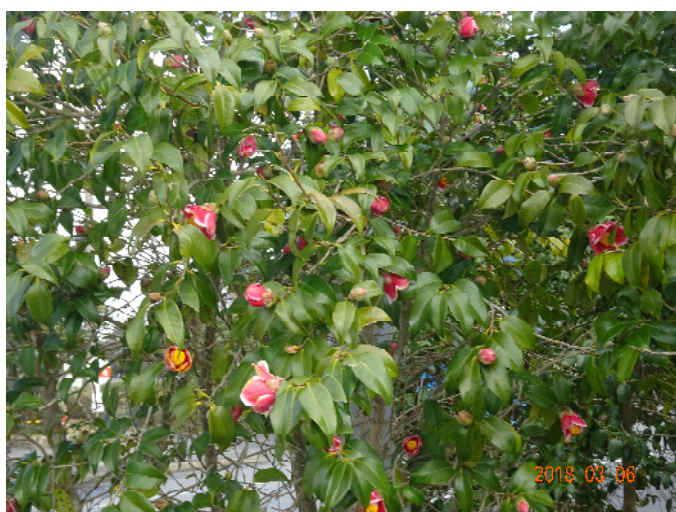
短い期間であったが、新上五島及び福江では随分ゆっくりとした観光ができた。福岡発JAL312(12:00発)で羽田に向かう。13時35分に羽田につき、遅いお昼を食べて、15:00時のつくば行きバスに乗り、無事帰宅した。並木のバス停まで恵美に迎えに来てもらい、無事6日間の旅は終わった。今回も恵美に留守を頼んで心置きなく旅行を続けることができた。国内といえども五島はやはり遠い島であった。



福江空港の入り口



五島名物のハコフグのみそ焼き



福江空港の玉の浦

今回初めて椿サミットに参加したが、上五島町の皆さんの歓迎ぶりは素晴らしかった。椿がこの町の産業に大きく貢献していることはよく理解できたが、それ以上に町をあげて迎え入れてくださっていることが印象的であった。会場の中に設けられた販売コーナーで地元の特産品を展示、販売しており、ボランティアと思われる販売員の皆さんの熱気を感じ、町をあげて対応していることが良く分かった。高校生の提案による上五島の椿油、サツマイモなどの特産品を原料にした教会、椿などのデザインのクッキーなども販売されており、楽しい時間を過ごした。今、上五島で求めてきた五島うどんの地獄炊きや、かんころ餅を賞味しながら、遥かな島・五島・を思い浮かべている。

また、椿サミットの常連であり、日本ツバキ協会の重鎮である小泉さんご夫妻とご一緒できたことは、初参加の私共としては非常に心強かった。滞在中のご親切に心から御礼を申し上げます。

.....

これは私的なメモで旅行から戻ると書き記している旅行記なので、内容は一般の方にはわかり難いことがあると思います。

小泉様に私的なものと申し上げますがとお送りしたのですが、ホームページに載せてくださるとのお話で、読んでくださる方々の何かのお役に立てばと思い拙文のまま寄稿させて頂きました。(2018.6.22.)

後記：旅行中上五島と下五島の人々は皆、世界遺産に登録されることを待ち望んでいるという話を聞きましたが、五月に登録されることが決定し、本当に良かったと思いました。多くの方々が五島列島を訪ねて欲しいと思っています。